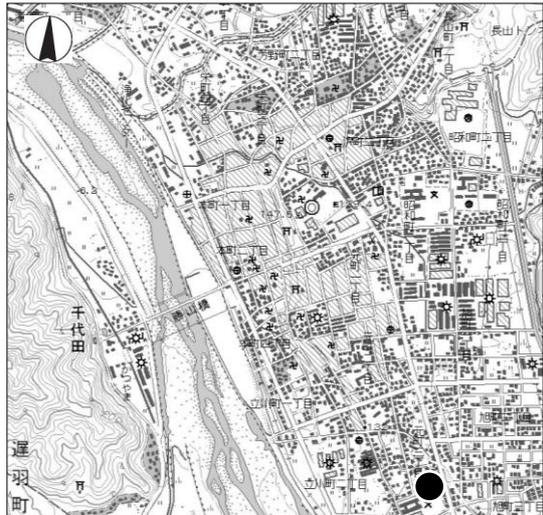


えのきしんでん いせき 15. 榎新田遺跡

所在地：福井県勝山市元町3丁目8-48
調査原因：個人住宅新築工事
調査期間：平成30年10月10日～10月12日
調査主体：勝山市教育委員会
調査面積：90㎡
時代：平安時代



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 榎新田遺跡は、平成30年(2018)に分布調査を実施し、元町近辺にて縄文時代から江戸時代の土器などが発見されたことにより新規登録されました。遺跡は、立川町2丁目、元町3丁目、旭町2丁目一帯に広がっていると想定され、九頭竜川の右岸の河岸段丘上に立地します。

今回の調査は、個人住宅の建設に伴って実施しました。調査地は当遺跡範囲の南端にあたり付近には個人住宅が立ち並んでいます。試掘調査の結果、地表下0.5～0.6mまでは住宅基礎に伴う盛土層や水田等を示す土が堆積していましたが、その下に平安時代(9世紀後半～10世紀初め)頃の須恵器などを含む黒褐色土層が堆積していることを確認しました。河岸段丘の下位にあたる地形からも、古代の村落が展開している可能性が考えられ、調査の結果、竪穴住居1棟などを検出しました。

遺構 検出された遺構は、9世紀後半～10世紀初めの遺物を覆土に含む竪穴住居1棟(一部のみ)と時期不明の土坑1基を発見しました。竪穴住居は、全体の約1/5で北東角一帯のみが見つかりました。詳細な規模は不明確ですが、柱穴2基の距離が3mであること、柱穴と壁面との距離が1.7mであることから約6m四方の竪穴住居である可能性が高いと想定されます。また、竪穴住居の北辺側に長さ1.3m、幅員0.2mを測る溝1条が検出されており、竪穴住居に付随する煙道の可能性が考えられます。しかし、竈などの痕跡はみつきませんでしたので今後の検証が必要です。柱穴は径0.52m前後で、残存する深さは床面から0.43～0.57mでした。また、竪穴住居内には柱穴以外に小穴4基を発見しています。

遺物 主な遺物が平安時代の土器です。多半は遺物包含層から破片の状態で出土しました。その中で注目すべきものとして、一般的な集落からは出土例が少なく、金属器を模倣したといわれる赤彩された暗文土師器がありました。暗文土師器の市内出土例としては、毛屋郷の中心地と考えられる北市遺跡が挙げられます。



出土した暗文土師器

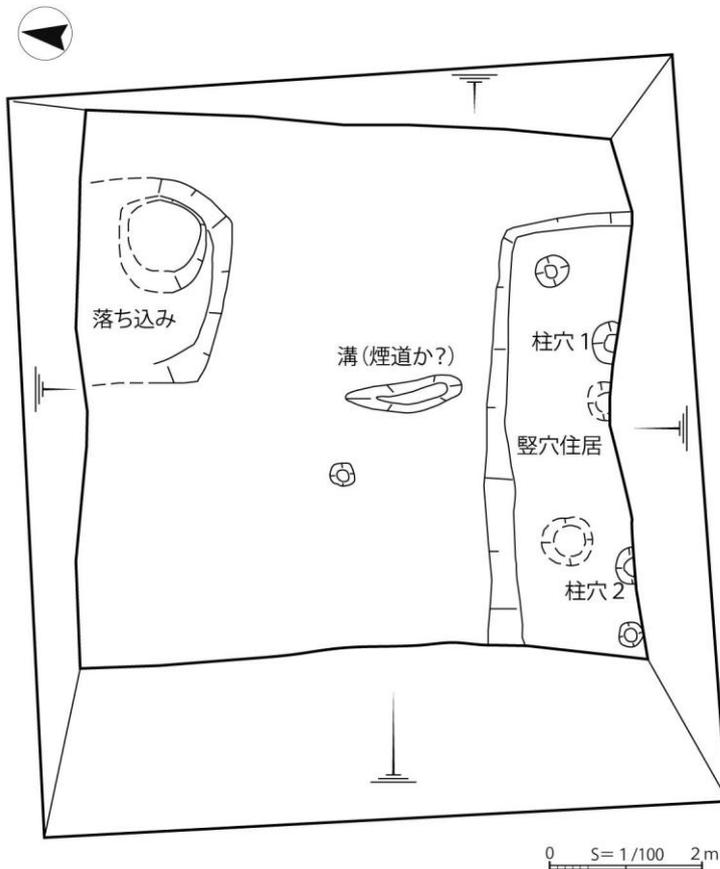
まとめ 市内において主な古代の発掘調査例としては、桧曾谷前田遺跡（9世紀）、松ヶ崎杉原遺跡（8世紀後半～9世紀中ごろ）、猪野口南幅遺跡（8世紀末～10世紀前半）、北市遺跡（9世紀～10世紀前半）、大渡西布遺跡（9世紀中ごろ）、猪野毛屋遺跡（9世紀中ごろ～9世紀後半）などが挙げられます。大渡西布遺跡、猪野毛屋遺跡、猪野口南幅遺跡以外からは竪穴住居が検出されており、榎新田遺跡も同様な集落が展開することが想定されます。また、赤彩された暗文土師器が出土したことから、毛屋郷の中心である北市遺跡から北へ約1km離れた榎新田遺跡も毛屋郷の範囲に含まれる可能性がでてきました。（藤本康司）



調査地全景（西から）



竪穴住居全景（北西から）



平面図（縮尺 100 分の 1）